

希少野生動植物保護回復事業計画の策定について

自然保護課

1 保護回復事業計画の策定種

種名：クビワコウモリ：*Eptesicus japonensis*

県希少野生動植物保護条例：指定希少野生動植物
 体長約 5～6cm、体重約 10～12 g、前腕長約 4 cm。
 夜行性で、飛翔性の昆虫類を食べている。



クビワコウモリ(標本)

2 策定の趣旨

クビワコウモリは日本固有種で本州中部に局所的に分布しており、長野県松本市の乗鞍高原で繁殖が確認されているが、他地域での繁殖場所などの詳細は不明である。なお、乗鞍高原における調査では、近年 20 年間では個体数が減少傾向にある。

非常に限られた繁殖地を保全する重要性は高いため、保護回復事業計画を作成し、種の保全を図っていく。

3 第 1 回環境審議会以降の経緯

(1) 希少野生動植物保護対策専門委員

- 委員長 中村 寛志 (信州大学 名誉教授)
 委員 辻 明子 (東信自然史研究会 代表)
 " 福江 佑子 (NPO 法人 生物多様性研究所 あーすわーむ 理事)
 " 藤田 卓 ((公財)日本自然保護協会)
 " 中野 圭一 (環境省信越自然環境事務所 統括自然保護企画官)
 " 富岡 弘一郎 (林野庁 中部森林管理局 計画課長)

(2) 検討状況

ア【第 1 回専門委員会】

開催日：令和元年 7 月 25 日 於：乗鞍自然保護センター (保護団体 3 名出席)

イ【第 2 回専門委員会】

開催日：令和元年 10 月 18 日 於：乗鞍自然保護センター (保護団体 3 名出席)

ウ【第 3 回環境審議会 (中間報告)】

開催日：令和元年 11 月 25 日 於：長野県庁議会棟 401 会議室

- 検討状況についての中間報告
 ○クビワコウモリ保護回復事業計画の素案の説明 } ⇒【4 対応状況】 p2

エ【パブリックコメント (県民意見募集)】

実施期間：令和元年 12 月 25 日～令和 2 年 1 月 31 日

募集結果：意見提出 10 件 (5 者) ⇒【5 結果と県の考え方】 p3

オ【第 3 回専門委員会】

開催日：令和 2 年 2 月 12 日 (水) 於：長野保健福祉事務所

- パブリックコメントの結果 (意見) と県の考え方について議論

4 環境審議会（中間報告）における対応状況

環境審議会での意見等と対応状況

番号	ご意見等	対応状況
1	蚊やハエ、蛾などのいわゆる「害虫」を食べてくれるコウモリの存在は有難いため、コウモリに対する理解を得るためにも、こうした特徴をアピールできないか。	・害虫、益獣という言葉は、生物の保護を生態的役割ではなく、人の利用価値で判断することにつながるため、こうした特徴ではアピールしない。
2	コウモリが益獣であるという良い面をクローズアップして普及活動をしたり、シンボリックな活用はできないか。	・「地域における保全体制の構築」の項目に、保護団体と県が中心となって、特に生息地域を対象として保護活動への支援と普及啓発を図り、地域における理解を得るなどの取組みを推進する主旨を追記。
3	クビワコウモリを守る会を盛り立てながら研究の促進を図って情報を得ていくことを、県として検討すべき。	
4	保護団体は熱意があるものの規模が小さい面がある。このため、県が保護団体に調査や普及啓発活動を委託するなど、保護団体の人達が活動しやすいような観点で進めていくべき。	・保護団体が活動しやすいような制度については、今後の検討課題とさせていただきます。
5	「情報収集とモニタリング」にも「モニタリングを継続していく」あるいは「生態研究を促進していく」という、少し突っ込んだ文言を入れられないか。	・「情報収集とモニタリング」の項目に、モニタリングを継続し、クビワコウモリの情報を蓄積・整理するとともに、生態についても研究を行う主旨を追記。
6	農業生物多様性という観点が必要。コウモリと農業や林業とはどんな関係や共生があるのかを調べてはどうか。	・「事業の目標」の項目に、種の保全と遺伝子の多様性の確保を長期的視点で行っていく主旨を追記。
7	長期的な視点で考え、環境変化がどうなっているのか、植生だけでなく昆虫の増減についても考えていくべき。	
8	長野県でも取り組んでいる地球温暖化適応プログラムとからめて、何か具体的な施策をする検討をするべき。	市民と連携した気候変動の問題を調べる調査が10年くらい続いている。こうした仕組みなどを使いながら、蛾類の調査ができるかどうか検討する。

5 パブリックコメントの結果と県の考え方

募集期間： 令和元年 12 月 25 日（水）～令和 2 年 1 月 31 日（金）

募集結果： 意見提出 10 件（5 者）

番号	要 旨	県の考え方
1	<p>広報や報道によって若い世代や県外の人も含めた幅広い人々にクビワコウモリに対する興味関心を持ってもらうことが重要。</p> <p>また、長野県の自然環境の豊かさを保全することに資するため、看板の解説文だけでは実感できない、希少種の実態を体験できるエコツアーのようなものを継続実施できないか。</p>	<p>保護回復事業計画に係る情報発信については、今後、県において関係機関と連携して積極的にこなっていく。</p> <p>また、乗鞍自然保護センターでクビワコウモリの生態についての展示と観察会を実施しているが、県としても一層の啓発・普及に努めていく。</p>
2	<p>情報収集、調査についても、地元の方々と一緒に行なうことが大変重要であると考え。クビワコウモリについて関心の少ない方に理解を深めてもらえるよう生息地域での説明会や相談会などを実施してはいかがか。</p> <p>地域の自然を守るには、どうしても地域の人の力が必要なため、その点に特に力を注いでいただきたい。</p>	<p>ご意見のとおり、県としても地域の方々の理解が重要と考えており、生息地域におけるご理解や関係者の協力体制の構築に努めていく。</p> <p>ご意見を踏まえ、記載を修正。</p>
3	<p>乗鞍高原のクビワコウモリを保全することは大変大切な事業と考える。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス肺炎の原因の一つに野生のコウモリが市場で売買されていたという情報を聞くと、クビワコウモリがウィルスを持っていないのか、たいへん心配。</p> <p>人の住む家屋で営巣をすることで危険がないかどうか、しっかり調べたうえで、人との共存を図るべきだと思う。</p>	<p>一般的に、コウモリと人との人獣共通感染症は、いくつかの種で確認されている。このため、クビワコウモリと人との共存方法を確立する方法の一つとして、本計画ではバットボックスを用いてクビワコウモリが家屋の中ではなく、外側で営巣することを目指していく。</p>
4	<p>生態の多くに残された不明の部分について、今後の情報収集とモニタリングで具体的にどの様に解明していくのか。</p>	<p>クビワコウモリの生態は不明な点が多く、研究も進んでいない状況のため、地域や関係機関及び研究者と連携しながら今後の情報収集とモニタリングに取り組んでいく。</p> <p>ご意見を踏まえ、記載を修正。</p>
5	<p>乗鞍高原での個体数の減少について、推測として2点が挙げられていますが、その他の要因も色々と考えられる。</p>	<p>クビワコウモリの減少要因については様々な可能性が考えられるが、詳細については不明。頂いた意見については、クビワコウモリの減少要因と保全対策を検討していく上で参考にさせていただく。</p>

6	<p>保護団体・県が中心となって活動支援と普及啓発に取り組むと全般論として示されていますが、専従の研究者によるフィールドでの観察、新しい技術や資材を使った追跡調査、人工飼育下での観察・分析等、今まで以上に多くの時間を生態研究に投入し、情報収集・モニタリング調査することが急務ではないか。</p>	<p>地域や関係機関及び研究者と連携しながら今後の情報収集とモニタリングに取り組んでいく。 ご意見を踏まえ、記載を修正。</p>
7	<p>具体的には、人との共存をすすめる為にバットボックスの設置を挙げているが、クビワコウモリが人間の住居を利用する以前から樹洞で生活していたのであれば、バットボックスが 個体数回復の切り札となり得るかの確証はあるのか。</p>	<p>バットボックスは、他種の樹洞性コウモリの保全対策でも営巣の実績があり、また、家屋内への営巣を避けるうえでも有効な方法の一つと考えている。</p>
8	<p>スケジュールとして概ね10年で、安定的な繁殖場所の確保に向け対策方法の確立等、この事業の効果を評価検証と見直しをする…とあるが、2002年のピーク以降、緩やかに減少傾向が続いている現状では、10年も掛けている時間はあるのか。</p>	<p>保護回復事業計画の検証・評価、見直しは、取組みの進捗状況を踏まえたうえで、10年という期間にとらわれず新たな知見、生息数の変化など生息状況の大きな変化があった場合にも行うこととしている。</p>
9	<p>事業の区域を「長野県内のクビワコウモリの生息地とする」と記載していますが、本計画内容は乗鞍地域のみです。長野県内の他の生息地についての計画については触れていませんが、一地域のみを保護するのではなく、地域個体群ごとの保護の考え方を取り入れ、各地域個体群の現状や課題に見合った計画を策定すべきだと思います。</p>	<p>乗鞍高原以外の地域では、極少数の個体が確認されているだけで、生息地や地域個体群として確認できる知見が得られていない。このため本計画では、コロニーが唯一確認されている乗鞍高原について主に記載しているが、他に生息が確認された場合においても保全体制の構築を図っていく。 ご意見を踏まえ、記載を修正。</p>
10	<p>既知の論文で尾瀬山系での捕獲記録があるため補記願いたい。</p>	<p>ご指摘いただいた内容を追記。</p>